

(4) 企画展示

ア 「手を取りあって進む道 ～介護・高齢化問題と向き合う」

18年度に重点収集した少子高齢化に関する資料のうちから、介護・高齢化問題に関する図書500冊を、19年3月16日（金）から6月13日（水）まで1階ロビーで展示、貸出を行った。当初、5月9日（水）までの予定であったが、好評のため期間を1か月延長した。

イ 「こんな本があるよ！ 2007」

図書館所蔵の本を対象に、職員の推薦コメントを付して1階ロビーに展示、貸出するとともに、利用者からもおすすめの本を推薦してもらった。「夏を楽しむ」など4つのテーマを示して募集、寄せられたコメントは順次掲示板に貼り出した。利用者からのコメントは43件、職員からのコメントは108件であったが、それ以外にもテーマに沿った本を集め、約350冊を紹介した。

ウ 「花祭の里」

19年11月9日（金）から20年1月9日（水）まで、国指定の重要無形民俗文化財である奥三河の花祭をテーマに、当館所蔵の関係図書・雑誌約260点と、写真、鬼の面、舞の衣装などを展示した。また、パソコン1台を設置し、花祭の記録映像を無声で繰り返し上映した。1階ロビーの会場には、花祭の舞処（まいと）を模して縄を張り、切り草で飾り付けて、来館者の目を引いた。



資料展示のほか、11月18日（日）には、東栄町の御園花祭保存会有志による舞の実演を5階大会議室で、12月15日（土）

には花祭会館の伊藤勝文館長による講演会を1階AVホールで行った。また、AVホールでは、会期中に花祭の記録映像上映会を土・日・祝日の午後2時から7回と平日午後6時30分からの1回、計8回実施、2種類のプログラムにより当館所蔵の5作品を紹介した。実演には約300名、講演会には45名、上映会には延べ108名の参加があった。

また、愛知県新城設楽事務所の協力により新城・北設楽地方の観光案内を各種用意して来場者に配布し好評であった。さらに、関係市町村教育委員会や県庁職員から写真の提供を受けるなど、多くの人々の支援により、郷土の誇る民俗芸能・花祭と、祭りを伝える地域の事情を多角的に紹介することができた。

エ 「芥川賞、はじめました。」

19年7月に名古屋市在住作家の諏訪哲史氏が第137回芥川賞を受賞したことを受け、8月10日（金）から11月7日（水）まで、2階ロビーで芥川賞についての展示を行った。

昭和10年の芥川賞創設から現在までを振り返り、賞創設の経緯や選考方法などをパネルで解説するとともに、受賞作の単行本、収録誌などを集めて展示し、図書については貸出も行った。愛知県出身の受賞作家についてはその経歴をパネルで紹介、受賞作以外の単行本も展示に加えた。展示冊数は200冊余りで、閉架書庫にあって普段は利用の少なくなった古い図書も含め、多くが貸し出された。